

23. 2019年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度

● 2019年度 中学入試 第1回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	76%	84%	漢字、文法、接続語、指示語、傍線部の内容・理由説明など、例年と同様の問題形式を心掛けた。それに加えて、二つのテキスト(本文・生徒の会話)から得られる情報を統合・構造化して考える能力を問うものを一題出題した。	問3の文法問題は「れ・られ」の識別問題だったが、受験生には馴染みが薄いのか正答率は低かった。読解問題では問6の正答率がやや低くなった。本文の文章そのものは平易なものだが、選択肢が他と比べ長いので、文意を把握しきれなかったか。
	b	86%	94%		
	c	96%	97%		
	d	85%	90%		
	問2	56%	66%		
	問3 (1)	50%	61%		
	(2)	43%	51%		
	問4	51%	57%		
	問5	68%	75%		
	問6	43%	51%		
	問7	53%	61%		
問8	52%	62%			
問9	60%	69%			
2	問1 ア	92%	94%	受験生にも読みやすく、親しみやすい文章から出題した。限られた時間の中で、正確に、読み飛ばすことなく読む力を問うた。また、表現の効果について考え、物語の主題をつかもうとする態度を日頃から養っているかどうかを確認する問題であった。	概ねよくできていた。問2は「あつという間」という表現が挿入される文脈であったが、合格者と全受験生では正答率に開きがあった。問8は論理的整合性がとれない部分を指摘するという「文字を読むスタミナ」が要求される問題であったが、ここでも正答率に開きがあった。日頃から考えながら読むことを心がけて欲しい。
	イ	92%	95%		
	ウ	72%	80%		
	問2	63%	72%		
	問3	65%	71%		
	問4	51%	55%		
	問5	68%	74%		
	問6	50%	57%		
	問7	68%	72%		
	問8	61%	71%		
問9	62%	68%			
3	問1 ①	61%	70%	他の回の大問3と大問4を融合させた総合問題。詩を中心とした韻文(短歌・俳句を含む)と漢字、語句に関する知識を幅広く問うもので、ここ数年と同様の傾向となっている。今回は「虫」をテーマに出題した。韻文の作品群は、使われている言葉をヒントに、できるかぎり作品世界をイメージできるかがポイント。語句に関する問いは、それぞれの虫や「虫」そのものが持っている意味(比喩的なものもふくめて)を考える。日ごろから覚えるだけでなく、意味を考える習慣をつけよう。	【A】～【G】の作品については、内容がイメージできたかどうか理解のかぎとなる。問1の④は【D】の作品についての感想だが、「ただひとつ」「ながれ来」に注目したい。他の問題はよくできていた。語句の問題は、「虫」の持つさまざまな意味を辞書的に説明したものを選ぶ問題がやや難しかったようだ。辞書をひく習慣はもちろんのこと、その前に自分で意味を考える習慣をつけるようにすると今後の国語学習に役立つはず。
	②	53%	59%		
	③	57%	65%		
	④	17%	21%		
	問2 ①	48%	58%		
	②	62%	71%		
	問3	68%	72%		
	問4	61%	74%		
	問5 ①	42%	46%		
	②	72%	78%		
	③	75%	82%		
	問6 ①	93%	97%		
	②	65%	74%		
③	31%	38%			

● 2019年度 中学入試 第1回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	89%	94%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3は単位換算。問4～8は特殊算を幅広い分野から、問9・10は図形の問題を出題した。第2・3・4回より5分少ないので、小問であまり時間をかけられないような問題構成とした。	基本レベルの問題を主に出題した。問2、問6、問8の問題の得点率が低かった。理由としては問2は分数を二つに分けて解く解き方を発見できなかったこと。問6はニュートン算の基本問題であるが苦手意識を持った受験生が多かったこと。問8は複雑な計算式の計算ミスのためと考えられる。
	問2	15%	20%		
	問3	75%	82%		
	問4	54%	70%		
	問5	69%	81%		
	問6	43%	57%		
	問7	95%	98%		
	問8	32%	42%		
2	問1	3%	5%	立体図形の問題。問1は展開図をかいて最短距離が直線になることを理解し、三角形の相似比から比を求める問題である。問2は問1を利用し、底面積の比から体積の比を求める問題である。	大問の図形問題として、立体の問題を平面の問題より先に出題した。問1、問2ともに難易度は標準レベルと想定していたが、想定外にかなり低い得点率となった。展開図から直線までの思考にたどりつけば、その後は相似比からの計算で解ける問題であったが、その思考までたどりつくことができない受験生が多く見られた。
	問2	1%	2%		
3	問1	81%	91%	本校でよく出題される旅人算の基本から標準的な問題で、問1・問2ともダイアグラムを利用して解く問題である。ダイアグラムを正確に書き、旅人算の基本公式を利用して解くことがポイントである。	問題文からのダイアグラムは書きやすく、問1は使用する公式を適切に使い、よく出来ていた。問2は問1の結果を利用して解く標準レベルの問題であったが、旅人算の公式を適切に使えていない受験生も多く、やや得点率を下げてしまった。
	問2	58%	71%		
4	問1	81%	89%	平面図形の問題。問1は平行四辺形と直角二等辺三角形の性質を利用する問題である。問2は補助線を適切に引き、60度の直角三角形を作り、角度を求める応用問題である。問3は問2の結果から合同な三角形を作り、辺の比を求めて解く問題である。	問1は平面図形の性質を問う基本問題であり得点率が高かった。問2と問3は正しい箇所に補助線を引くことなどの発見が難しく、難易度が高い問題と想定していたが、問2は65%の得点率であった。
	問2	65%	75%		
	問3	41%	52%		
5	問1	49%	62%	つるかめ算を含んだ規則性の問題である。問1は面積図からつるかめ算の公式で解く標準的な問題である。問2と問3は表(時間の流れ)を利用して求めていく問題である。少ない時間で問題文章を正しく理解し、表を正確にかくことを問う応用問題である。	問1はつるかめ算の問題であり、面積図を正しくかければ解ける問題であり、問2と3は表(時間の流れ)を地道にかければ正解にたどりつける。残り時間の少ない中、問題文章を理解し、解くために必要な条件や考え方を整理するのに苦労した受験生が多いように思われた。
	問2	19%	29%		
	問3	11%	14%		

● 2019年度 中学入試 第1回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	2%	2%	日本のエネルギー事情と日本経済の現況についての出題。日頃から新聞報道などに接し、時事問題に関心を持っているかどうかを問うた。	問1の固定価格買い取り制度を解答できた生徒がほとんどいなかった。原発の安全対策コストが膨らむ中、自然エネルギーに関する報道が増えている。日頃から新聞などを読む機会を増やし、社会問題について関心を持って欲しい。
	問2	55%	62%		
	問3	51%	50%		
	問4	29%	34%		
	問5	49%	53%		
	問6	53%	59%		
	問7	61%	65%		
2	問1	67%	72%	系図を元にしていくつかの時代の特徴や関連する人物を把握しているかを設問にした。出し方を少しひねった問題もあるが、よく読めば対応できるような設問も数問入れている。	問2は、系図だけで考えようとすると難解。「推古天皇」と「聖徳太子」の関係性が分かり、さらに選択肢に該当する箇所をよく考えないと解けない。問9は2の選択肢が天保の改革と似ており、やや難解だが1の選択肢が明らかに享保の改革を説明している。問10は外交史の並べ替えだが、外交史に限らず並べ替え問題は例年正答率が低いため、因果関係をしっかりと勉強しておきたい。
	問2	56%	64%		
	問3	82%	90%		
	問4	98%	99%		
	問5	93%	95%		
	問6	96%	97%		
	問7	89%	94%		
	問8	87%	94%		
	問9	35%	42%		
	問10	47%	54%		
3	問1 あ	73%	80%	社会的事象への関心を土台に日頃の学習への興味関心を抱くことを意識した出題とした。ニュースはもちろん大人の会話などにも触れる機会が求められた。	全体として予想を超える正答率で大変うれしく感じた。問2、問4などは、消去法からでも正答に導かれる問でもあり難しく感じたかもしれない。年金問題など今後の日本社会にとっての大きな問題には早くから興味関心をもつ、また持たせる責務もあるように思う。
	問1 い	72%	81%		
	問1 う	81%	84%		
	問1 えお	75%	82%		
	問1 か	73%	82%		
	問2	52%	59%		
	問3	80%	88%		
	問4	39%	41%		
	問5	71%	79%		
	問6	47%	54%		

● 2019年度 中学入試 第1回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	87%	91%	前半のAでは地球温暖化にかかわる知識を問い、後半のBではデータの読み取りを通して地球温暖化の進行具合とその影響を見積もる科学的思考力を問うた。	比較的平易な難易度の設定に対し、想定以上にしっかり問いに答えることができていた。資料中で年月の経過とその後起こる変化は一目瞭然に示されていなかったが、定量的な推測の最初の手がかりとしての比例関係を読み取り、すすめることができた。設問には設けなかったが、問いで設けた推測によって、頂上近くに生息する生物が絶滅に追いやられかけていることが予想されることに気づいただろうか。中学進学後の学びではこうした「気づき」を大切にしてもらいたい。
	問2	63%	68%		
	問3	69%	76%		
	問4 (1)	82%	87%		
	(2)	87%	93%		
	問5	41%	53%		
2	問1	36%	37%	海浜で見られる地層や崖が、どのようにしてでき、どのようなもので構成されているか、また、地層が傾いていたり、化石が含まれていることからどんなことがわかるのかを問うている。スケッチ図から必要な情報を読み取り、過去の現象を推定することを問う問題である。	大問全体の難易度は、易～標準で良く出来ていた。その中で、問1の出来が予想より良くなかった。硬いレキ岩の平面を、堆積した柔らかい平面と勘違いしたことが原因と考えられる。問題文をきちんと読めれば、正答率は上がると思われる。
	問2	75%	79%		
	問3	78%	83%		
	問4	80%	82%		
	問5	95%	98%		
	問6	66%	72%		
3	問1 ア	93%	95%	問1・2・3は溶液に関する用語と、基本的な性質の理解について問う基本問題。問4・5は溶解度を表す表とグラフからデータを読み取り、計算に利用できるかを問う標準の計算問題。	溶液に関する用語については予想より得点率が低く、全受験生と合格者の得点率にも差異が低かった。基本的な性質を聞いた問2や、溶解度の計算問題などは得点率に差異が大きく合否を分ける問題となった。問4・5の計算問題は頻出問題なので、十分な練習が必要である。
	イ	24%	28%		
	ウ	33%	38%		
	エ	22%	22%		
	オ	64%	72%		
	問2	43%	52%		
	問3	27%	29%		
	問4	48%	57%		
	問5	69%	81%		
4	問1	84%	87%	中学入試ではばねが伸びる場合を扱うことが多いが、この問題は鉛直に立てられたばねが縮む場合である。ばねが縮む長さがおもりの重さに比例するという記述から、ばねが伸びる場合と考え方は同じであることに気づくことができるか。また、振動の様子、床にかかる力をイメージする力が必要である。	ばねの静止する位置を求める問題は伸びるときと同様に扱うことができたようで正答率は高かった。ただし、振動の様子をイメージすることが難しく、力のつり合い位置でばねの長さが最短になるとしてしまふ受験生が多かった。それに伴ってグラフを選ぶ問題も正答率が低く難しめであったようだ。
	問2	86%	90%		
	問3	67%	76%		
	問4	16%	21%		
	問5	62%	70%		
	問6	19%	20%		

● 2019年度 中学入試 第2回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	67%	80%	<p>数学的な知識や考え方は、日常生活にも生かすことができる、という主旨の文章から出題した。論理的に文章を読み取る力が必要なことはもちろんだが、読み取った内容を課せられた条件にしたがって正確かつ簡潔に表現することを要求する問い(問3(2)A・B、問4、問7)をねらった。(「数学力は国語力」齋藤孝による)</p>	<p>問3(2)と問7は、おおむね予想どおりであったが、問4は、予想以上に得点率が低かった。文意を正確に把握するだけでなく、10文字以内という制約の中で表現することが難しかったためと思われる。しかし、国語力という点では、ぜひ伸ばしてほしい力である。全体としては、予想以上の出来であったと言える。</p>
	b	63%	74%		
	c	62%	72%		
	d	81%	89%		
	問2 (1)	57%	73%		
	(2)	63%	80%		
	問3 (1)	57%	73%		
	(2) A	58%	74%		
	(2) B	56%	74%		
	問4	5%	8%		
	問5	56%	70%		
問6	54%	63%			
問7	30%	41%			
2	問1	72%	72%	<p>登場人物の心情を行動や発言から読み解く力を求める設問を中心に、出題した。中には、登場人物の試合の進め方から、どのような戦法をしようとしているか等、全体を踏まえて解釈しなければならない問題も出題した。言葉の一つ一つを意識して読解の幅を広げてもらいたい。</p>	<p>基本的な国語力を求める問題は全受験生総じてよくできていた。しっかりと語彙等の勉強をしてきたことがうかがえた。発展問題は得点率が低い結果となった。「出題のねらい」で述べた内容を日頃の読書から培ってもらいたい。</p>
	問2	55%	55%		
	問3	79%	86%		
	問4	25%	27%		
	問5	64%	71%		
	問6	36%	50%		
	問7	51%	64%		
	問8	27%	31%		
3	問1	74%	75%	<p>詩の基本的な読み方を問う問題。詩の読み方は一つではないので、いくつかの可能性の中から、出題者の読み方をとらえることが大切である。そのためには設問や選択肢をよく読むことが求められる。</p>	<p>全体的によくできていた。問3は「いつものように」のくり返しに注目する。字数の指定も重要な情報。問4・問5は構成が起承転結になっていることに気づけばよい。問4に比べて問5の正解率が低いのは、選択肢の比較・理解が不十分だからではないだろうか。</p>
	問2	96%	97%		
	問3	53%	66%		
	問4	81%	90%		
	問5	74%	78%		
4	問1 ①	36%	41%	<p>漢字の部首についての問題である。漢字学習を効率的にするためには、丸暗記に頼るのではなく、理論的に成り立ちをとらえていくことが必要であり、日頃からの学習状況をはかる意味での出題とも言える。</p>	<p>説明会等で、国語知識問題の定番としていることもあり、準備ができていることがうかがえる。漢字も含めて語彙力が読解の基礎にあることを忘れず、熟語や用例などにも目を向けて学習することを望む。</p>
	②	66%	78%		
	③	49%	59%		
	④	69%	85%		
	問2	54%	65%		
	問3	57%	65%		
	問4	52%	59%		

● 2019年度 中学入試 第2回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	98%	100%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3は単位換算。問4～8は特殊算を幅広い分野から、問9・10は図形の問題を出題した。	基本的な問題のため、全体によく出来ていた。問6は2つの列車の速さが異なるのに、単純に $(3+4) \div 2 = 3.5$ (秒)としてしまう誤答が目立った。問9の立体計量は表面積ではなく体積を求めてしまうケースが多く、これが正答率の低さの原因となってしまった。
	問2	69%	79%		
	問3	70%	84%		
	問4	88%	95%		
	問5	83%	93%		
	問6	48%	71%		
	問7	33%	51%		
	問8	90%	96%		
	問9	42%	50%		
	問10	48%	68%		
2	問1	65%	82%	問1は平行線を利用した基本の比の問題で、問2は等積変形を利用して計算を簡単にできるかがポイントの出題であった。	問1は基本の連比の問題なのでよくできていた。問2は問1で求めた $DG:GH$ を利用して、 $\triangle AHG$ の面積が全体の $1/12$ に気づけたかがポイントであり、 $\triangle AEI$ の面積が全体の $1/6$ であるので、すぐに正解にたどりつける。
	問2	23%	46%		
3	問1	79%	92%	問1は基本的なつるかめ算、問2は全部カンパンだと352人分になるので、それをご飯・缶詰に入れ替えていく差集算、問3は浴そう1杯分の水を100とおいて考える相当算。 受験生のみなさんにも災害について興味を持ってもらいたく、その題材を選んだ。数値はすべて「東京防災」を参考にした。	問1はよくできていた。問2は「ごはん1個+缶詰1個」のセットで $7/10$ 人分。これをカンパン2個と入れ替えると $7/10 - 2/3 = 1/30$ 人分増える。難問であり正答率は想定範囲。問3は必要な情報だけをピックアップして素早く線分図に置き換えられるかがポイント。長い文章が苦手な受験生が多いと想定されたため問3に配置した。
	問2	5%	9%		
	問3	10%	20%		
4	問1	89%	96%	中学以降で扱う立体図形の比の問題を、いくつかの条件を与えて小学校の比の問題に変えて出題した。立体の切断を題材とした計量で、空間認知力を要求する問題である。切り口AEGC上での比に持ち込めるかがポイントである。	問1は主題の問2を解くための準備段階なので、1割以上も誤答がいたことにむしろ驚いた。問2は難問であるので、この正答率ではあるがよく健闘したと評価できる。
	問2	7%	13%		
5	問1	33%	54%	「大きい紙」を指定された大きさの正方形に分割する問題であることに気づくことができるかがポイントである。文章を読解する能力が求められる。	縦の長さとの横の長さの最大公約数を求めることに帰結することができるかがポイント。問1で「小さい紙」の貼り方のルールを確認しているが、ここでの正答率が低かったことから、文章を読みこなせたが否かが合否のポイントになったと推測される。
	問2	37%	63%		
	問3	14%	29%		

● 2019年度 中学入試 第2回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 A	30%	46%	北海道の地誌をベースに問題を作成した。地理分野の学習事項となる自然環境や産業の地域的特徴の確認を主とし、歴史分野から江戸時代以降の学習事項を一部加えて、北海道地方の成立・発展への理解を確認した。	北海道の気候や産業に関する特徴をしっかりと理解できており、得点率も高い。雨温図の問題や農牧業の特徴を問う問題はいずれも正答率が高く、図表の読み取りに関する基本的な能力を持ちあわせていると考える。一方で、問1や問7の空所補充については、「蝦夷」や「屯田兵」など漢字の誤字が多く目立った。主な用語は漢字できちんと記入できるとよう取り組んでほしい。解答する際の文字もていねいに記入することが必要。
	B	32%	33%		
	C	43%	63%		
	問2	67%	82%		
	問3	62%	74%		
	問4	89%	96%		
	問5	74%	88%		
	問6	94%	100%		
	問7 あ	90%	97%		
	問7 い	53%	72%		
	問7 う	95%	99%		
	問7 え	76%	87%		
	問7 お	68%	84%		
問7 か	81%	90%			
2	問1	79%	83%	歴史と地理の連動を1つのねらいとして出題した。歴史の基本語句はもちろんのこと、参考書だけではなく、いかに「社会」に興味を持って探求できるかを問うた。漢字の書き取りの課題は毎年あげられることだが、それ以外も設問を落ち着いて読み、解くことができれば8割は取ることができると感じる。	全体(歴史)で約64%の正答率であったので、難問の出題率は適量だと感じる。今回は歴史分野で、地図を連動して出題した。語句は理解していても、地理との連動は課題としてあげられる。吉野ヶ里遺跡・登呂遺跡等は入試頻出単語であり、それがどこに存在し、場所を日本地図から選ぶことができるかがカギとなった。問6で「木戸孝允」を問う問題があったが、漢字の書き取りが課題としてあげられる。正解しているつもり、書いているつもりでの勉強からの脱却が必要だろう。
	問2 A	74%	85%		
	B	77%	89%		
	C	7%	11%		
	問3 (1)	85%	92%		
	(2)	85%	93%		
	問4 (1) あ	73%	77%		
	(1) い	45%	65%		
	(2) A	82%	92%		
	(2) B	71%	81%		
	(2) C	70%	81%		
	問5 (1)	53%	62%		
	(2)	65%	81%		
問6	25%	34%			
問7	64%	77%			
3	問1	77%	76%	平成最後の年に、平成の出来事を年表形式にして出題した。公民分野をベースに時事問題や地理、歴史を融合させた問題を出題した。日頃から新聞やニュースを通じて多くの情報に触れているかを重要視した。	全体(公民)で68%の正答率であり、学習の跡がうかがえる。イラクの場所を問う問題の正答率(40%)が一番低かったのは中東情勢への関心の低さの表れかもしれない。日頃から国名と大まかな場所については対応させられるようにしたい。裁判員制度や憲法改正要件など自身の生活に関わることには正しい知識を有して欲しい。
	問2	63%	44%		
	問3	41%	99%		
	問4	89%	56%		
	問5	48%	80%		
	問6	66%	74%		
	問7	63%	80%		
	問8	74%	82%		
	問9	71%	97%		
	問10	89%	86%		
	問11 北朝鮮	83%	74%		
	問11 韓国	68%			
	問12	54%			

● 2019年度 中学入試 第2回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	92%	96%	テーマは人体について。 次の問に関する理解を問うた。 問1：細胞のはたらきについての知識問題 問2、問3(1)：体液と血管についての知識問題 問3(2)(3)：臓器のはたらきについての知識問題 問3(4)：循環系についての知識問題 問4：計算問題	細胞や臓器の一般的なはたらきについてはよく理解ができている。 問3(1)の血管の種類に関する問題は名称とそのはたらきをうまく関連付けて覚えることでもっと得点率が上がるだろう。 問4は一見複雑だが、文章をよく読むと単純な計算問題であることがわかる。
	問2	57%	73%		
	問3 (1)	41%	53%		
	(2)	62%	72%		
	(3)	78%	88%		
	(4)	73%	87%		
問4	40%	56%			
2	問1 30℃以上	78%	93%	気象について問う問題である。気象データから天気の特徴や気圧配置を判断できるかどうかを見た。また、台風の特徴や台風による被害について理解していることが求められる。	問1の用語の問題、問3の日本付近の気団の選択問題、問5の台風による高潮の原因を考える問題については比較的よく理解していることがわかる。問2の日本付近に見られる典型的な気圧配置を読み取る問題については、特徴的な気圧配置は押さえておきたい。問4の台風の特徴については基本的な事柄を理解してほしい。
	35℃以上	85%	95%		
	問2	32%	38%		
	問3	83%	88%		
	問4	47%	65%		
	問5	71%	80%		
3	問1 (1)	97%	99%	化学の基本法則をもとに物質どうしの反応の関係性を考える問題である。それぞれの問題から各物質の酸素との反応の割合を導き、それをもとに、反応量の比較ができるかというのをねらいとした。	物質それぞれの酸素との反応の割合までは良く求められていた。しかし、最後の問題で各物質を比較するためには、3種類の金属と反応する酸素の割合をそろえなければならなかったため苦戦した受験生も多かったようである。
	(2)	85%	96%		
	問2 (1)	95%	99%		
	(2) A	75%	95%		
	(2) BC	83%	97%		
	問3	44%	55%		
4	問1	58%	77%	音についての問題。前半の問1～問3は知識を問い、後半の問4、問5は計算問題であった。問1、問2は音の波形と音の強弱と高低についてグラフから判断ができたかを見た。問3は音の伝わる速さが物質によってどう異なるかを確認した。問4は温度と音速の関係式を利用した計算ができるかを見た。問5は桁数の大きな計算を解いていく力を見た。	問1、問2は知識問題だが全受験生と合格者の正答率に差が出た。図がない中で実験を考察して解くところに難しさがあったようだ。音速の公式を利用し解いていく問4、5は全体的によくできていた。計算量の多い問5は問1、2と同様に正答率に差が出た。
	問2	51%	69%		
	問3	39%	49%		
	問4	71%	90%		
	問5 (1)	88%	96%		
	(2)	54%	79%		

● 2019年度 中学入試 第3回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	64%	66%	本文趣旨を正しく読み取れているかを空欄補充、選択肢、記述問題にて設問設定。本文キーワードになる語句の読み取り、使い方について問う設問を設定。漢字については、本文内容に即した読み取りが出来ているかを確認。	本文全体の趣旨については、概ね読み取れていたように思う。一方で本文キーワードになる語句についての理解が不足しているようだ。また、それらに関連して、様々な語彙に対する理解力も不安が感じられた。記述問題に関しては、設問に対する理解力不足、基本的な読解力の不足が目立った。表現するにあたり整理しきれていない点も目立った。漢字書き取りの問題については概ね予想通りの結果となった。
	b	65%	85%		
	c	26%	46%		
	d	22%	31%		
	問2	68%	83%		
	問3	42%	51%		
	問4	28%	38%		
	問5	66%	74%		
	問6	32%	41%		
	問7	59%	78%		
	問8	39%	50%		
問9	68%	78%			
2	問1 ア	73%	81%	標準的な問題を中心とし、問5、6では文章の流れを意識させることと、短文でまとめる力を測った。問5の穴埋め問題はまさに物語をきちんと読み、把握していなければ解けない問題とした。また、問6では言葉をうまく使い、短文(20字程度)でまとめさせた。これは、大学入試でも今後記述式の問題が鍵となるということを意識した。	問5、6の正答率が二極化していたということで、概ねこちらの意図は達成できたように思う。特に問5は文章を丁寧かつ的確に読める力と密接に関係してくると考える。また、問6に関しては、短文でまとめる力を測りたかったが、得点率を見ればわかるように、あまり良い結果とは言えなかった。
	イ	79%	89%		
	問2	72%	76%		
	問3	68%	81%		
	問4	80%	85%		
	問5	62%	83%		
	問6	26%	38%		
問7	81%	89%			
3	問1	31%	43%	「原っぱ」というどこか懐かしい響きの言葉を題名に持つ詩からの出題。散文詩からの出題は極めて珍しいが、自由詩・定型詩とともにあげられる散文詩を忘れずにおきたい。詩の題名は時に作者が最も強く心を動かされたことを読み取る大きな手がかりとなるものです。「原っぱ」に象徴される作者自身の少年時代を懐かしく振り返る心情を捉えられたかがポイントである。	問1の詩の形式に関しては、圧倒的に自由詩が多い出題傾向にある中、普通の文章のように書かれた散文詩に戸惑った受験生が多く極めて得点率が低かった。問2の擬態語の問題は同段落中の「何もなかった」に着目すれば草むらの様子を手つかずのままと考えられたはず。問4は「原っぱ」の情景描写に作者の心情を読み取る問題。失われたものが「原っぱ」だけではなく、少年時代を懐かしむ思いが重なっていることに気づくことが大切。内容的には平易な詩であったので全体に得点率は高かったといえる。
	問2	65%	71%		
	問3	52%	71%		
	問4	80%	86%		
	問5	75%	89%		
4	問1	78%	86%	オリンピックに因んで、五輪の色に関わる表現を問いとした。慣用句やことわざの類いは、単なる知識というだけではなく、実際にそれを使いこなすことができ、はじめて意味を持つ。普段からの学習を大切にしたい。	問4「赤子の手をひねる(ねじる)」は、「赤子」という語になじみが無かったこと、問5も「柳」に対する季節感がずれていたことに、それぞれ得点率が低い原因がありそうだ。問7「赤」も「赤裸々／赤はだか」や「真っ赤な嘘」などの使い方が思い浮かぶかが鍵となる。
	問2	58%	79%		
	問3	66%	81%		
	問4	28%	50%		
	問5	30%	31%		
	問6	61%	81%		
	問7	35%	54%		

● 2019年度 中学入試 第3回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	72%	81%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3は単位換算。問4～8は特殊算を幅広い分野から出題した。問10は空間図形の問題。辺や面の関係を展開図になおせるかがポイントである。	基本問題なので概ね得点率は高かった。問5は分配算の問題であるが、計算が複雑であるため計算ミスが目立った。問3の単位換算と問10の空間図形の問題は苦手意識が高い生徒が多く見られた。
	問2	85%	94%		
	問3	39%	49%		
	問4	80%	88%		
	問5	41%	60%		
	問6	72%	88%		
	問7	60%	81%		
	問8	78%	86%		
	問9	59%	75%		
	問10	20%	31%		
2	問1	75%	86%	平面図形の計量問題。問1は正八角形の性質を利用し、面積を求める基本問題。問2は補助線を用いて、問3は等積変形を2回利用し、正八角形の面積との比較を行う問題である。	問1は基本的な問題であるため、もう少し得点率が高くなってほしかった。問2は補助線を利用して正八角形の1/8の面積が2個分と捉えることができるかがポイント。難易度が高い問題ではないため、図形の苦手意識が高い受験生が多く見られた。問3は問2の答えから等積変形を2回行うため、さらに正答率が下がってしまった。
	問2	41%	48%		
	問3	14%	18%		
3	問1	8%	16%	トライアスロンを題材にした速さと相等算の融合問題。問1は文章から状況を正確に読み取り、時間の比を利用して答えを求める問題。問2は問1の結果を利用し、速さの比を求める問題。	条件が多いため、必要な情報をいかに早く正確に読み取れるかが得点できるかどうかの分かれ目となった。問1は追いつく前と後で相当算を利用できるかがポイントである。問2は問1の得点率が低いため、さらに得点率を下げってしまった。
	問2	3%	9%		
4	問1	43%	60%	立体図形の求積の問題。問1は円柱から円錐を除いた立体の容積を求める問題。問2は2つの異なる立体に同じ量の水を入れたときの高さの高低について理由も含めて問う問題。2人の会話文形式で出題し、会話文の内容を正確に把握できるかが1つのポイントである。	問1は立体の容積を求める基本的な問題であったが、計算ミスが多く見られ得点率を下げってしまった。問2は立体の高さの比較について、除いた円錐と円柱に着目して理由を説明している生徒も多く見られた。
	問2	27%	38%		
5	問1	48%	71%	デジタル時計に表示される数字を題材にした場合の数の問題。問1は樹形図を正確に書き場合の数を求める問題。問2、3は問題の条件を満たすパターンが多い分、速く正確に漏れなく数上げることができかがポイントである。	問1は回数が少ないので、樹形図を正確に描くことができれば正解できたであろう。問2、3は条件を満たす時刻の回数が多い分、正確に数え上げられていない受験生が多く、得点率を下げってしまった。
	問2	3%	4%		
	問3	0%	0%		

● 2019年度 中学入試 第3回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1)	73%	91%	各都道府県の気候・自然環境・特産物の特徴などを出題した。基本事項と時事的な事項の双方を理解し、結びつけて捉えることができているかを確認した。歴史分野を数問出題したが、それも各時代の大きな特色を理解できているか否かに関して出題した。	都道府県の形に関する得点率の高さを見ると、地図帳を使った丁寧な学習ができていると思われる。また山梨県や長野県の特産物に関しては、どちらも基本ではあるが紛らわしい。また歴史分野の「土偶」、『古事記』の内容なども基本ではあるが、しっかり理解していないと、混乱しやすい。
	(2)	52%	64%		
	(3)	60%	66%		
	問2	68%	83%		
	問3	93%	100%		
	問4 (1)	87%	93%		
	(2)	77%	86%		
	問5 (1)	56%	63%		
	(2)	73%	81%		
	問6 (1)	88%	95%		
	(2)	91%	95%		
	問7	63%	80%		
	問8	81%	94%		
2	問1	52%	66%	九州地方の史跡を通じて、日本の歴史を概観する出題とした。標準問題に時事的内容や地理分野をミックスしたため、やや難しかったかもしれない。	問6の縄文時代の特徴を問う正誤問題の得点率が低かった。「大型動物」は旧石器時代、「のぼりがま」は古墳時代に関連する用語。知識を時代と関連づけて定着させてほしい。石炭から石油のエネルギー革命(問11の空欄5)も得点率が低かったが、難問ではない。時代の転換点に関する知識と理解を深めてほしい。
	問2	74%	80%		
	問3	31%	38%		
	問4	86%	94%		
	問5 2	94%	100%		
	3	34%	46%		
	問6	26%	29%		
	問7	44%	54%		
	問8	94%	96%		
	問9	85%	95%		
	問10	58%	78%		
	問11 5	51%	76%		
	6	61%	80%		
	問12	66%	74%		
問13	64%	85%			
3	問1	59%	76%	平成最後の入試の年に、明治から平成までの近現代史を改めて振り返り、日本や世界でおこった代表的な出来事や現代の日本が抱える問題点などについて考えさせることを目的として出題した。また、現代日本・世界の基本的な成り立ちや、時事的な問題に対して興味関心を持っているかを問う問題を意識的に作成した。	公民分野の得点率は約55%。地理・歴史分野に比べて低い数値となった。憲法9条の空欄補充(問10)やPKO協力法(問9)は得点率が高く、基本的知識の高さが見られたが、その他すべての選択問題で得点率が50%を下回った。一問一答的な理解に留まることなく、もう一步踏み込んで考え、理解する学習を習慣化していくことを期待したい。
	問2	28%	50%		
	問3	44%	64%		
	問4	37%	45%		
	問5	44%	51%		
	問6	43%	66%		
	問7	38%	54%		
	問8	59%	80%		
	問9	76%	89%		
	問10 1	94%	99%		
	2	85%	96%		
	3	84%	94%		
	問11	41%	61%		
問12	44%	51%			

● 2019年度 中学入試 第3回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	56%	68%	昆虫の形態、暮らしについて出題した。多くの受験生が、クロシジミとクロオオアリについて詳しくは知らないと思われるが、与えられたリード文をしっかりと読むことで、身につけた知識と結び付けて、正しい答えを出すことができる力があるかどうかを試してみた。	問5の得点率が、予想していたよりも低くなった。知識問題は、教科書や塾のテキストで扱っているものから出題されることが多いので、丁寧に覚えること。 問6で問われている内容は、本来難しいものではないが、問われ方を変えられると得点できなくなっている。 「覚えること」と「理解すること」、どちらも大切にしてほしい。
	問2	69%	74%		
	問3	46%	63%		
	問4	97%	98%		
	問5	5%	15%		
	問6	29%	50%		
2	問1 ア	50%	69%	日本の天気に関する出題および地上高と気温の関係について問う出題である。気圧と前線に関する知識を有しているか、グラフの読み取りができるかをはかる出題となっている。	季節によって発達する日本付近の気団と天気との関係について半分ほどの受験生は曖昧な状態になっているようだった。寒冷前線と天気の組み合わせは、前線の図をイメージして判断してもらいたいところである。グラフの読み取りについては、単純なものの得点率は高いが、それを活用して考える段階の問題でつまずいてしまうようだった。
	イ	33%	56%		
	ウ	51%	60%		
	問2	43%	55%		
	問3	20%	28%		
	問4	77%	90%		
	問5	79%	89%		
	問6	37%	58%		
3	問1	95%	99%	身近に存在する水についての問いである。水に関する3つのグラフをもとに、グラフを読み取り問題を解いていく思考力や、身のまわりで起こる現象に興味を持って生活しているかなどをはかることをねらいとした。	全体的に得点率は高かったが、グラフの読み取りが苦手な受験生も多く、合格者との差が付きやすかったようにも感じられる。問4のように現象を理解しつつグラフを読み取る複合問題や、問6のような複雑な計算問題は今後できるようになってほしい問題である。
	問2	78%	96%		
	問3	85%	95%		
	問4	65%	79%		
	問5	78%	89%		
	問6	32%	51%		
4	問1	64%	73%	はじめはばねに関する典型的な問題であるが、問4ではばねにはたらく力だけではなく磁石にはたらく力を考える問題となっている。問6以降はさらに難易度が上がり、おもりの重さ、磁石にはたらく力、台はかりの重さを吟味する問いである。	ほぼ想定通りの得点率であったが、問3が低いのが意外であった。おもりが上下に往復運動するようすをイメージできていないようだった。問7は問6を利用して考察する問題なので得点率がかなり低かった。
	問2	55%	74%		
	問3	19%	24%		
	問4	60%	83%		
	問5	45%	64%		
	問6	36%	53%		
	問7	7%	20%		

● 2019年度 中学入試 第4回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評	
		全受験生	合格者			
1	問1 a	76%	89%	漢字はいわゆる「難しい漢字」ではなく、語彙の豊富さを問うた。問2問3は文の構成を問うことで作文力を見た。内容的には問4問5で細部を聞き、問8で全体を聞いた。また問9は記述問題としては分量が少ないが、与えられた例を一般論に置き換えて答えるという、やや新傾向の問題である。	問2・問3ができていないということは、自身で作文をする経験が少ないということが考えられる。また、記述の問9は答えを見てみれば簡単な問であったということがわかると思うが、書けていない。具体例の中から答えてしまっているものも多かった。説明をするときにしっかり目的語などを入れる癖をつけて欲しい。	
	b	86%	94%			
	c	74%	85%			
	d	41%	62%			
	問2	24%	29%			
	問3	24%	38%			
	問4	40%	54%			
	問5	61%	69%			
	問6	77%	85%			
	問7	93%	92%			
	問8	41%	57%			
問9	右	15%	21%			
	左	14%	11%			
2	問1	70%	80%	物語の語り手が誰であるかをしっかりと意識したうえで、登場人物の心情、行動の理由を確認できること。周囲の情景が人物の心情とどのように関わっているかを理解することがねらいである。また、語句の意味にもしっかりと意識を向けてほしい。	全体的にストーリーを追いやすい文章であったため、きちんと物語を読む訓練をしていれば得点の取れる設問であったと思うが、離れた個所からの抜き出しや、内容の正誤一致で落とした受験生が多かったように感じる。文章全体を把握して読む力をつけることが必要である。	
	問2	90%	91%			
	問3	A	62%			81%
		B	90%			96%
	問4	98%	100%			
	問5	67%	72%			
	問6	79%	91%			
	問7	4%	8%			
問8	62%	76%				
3	問1	22%	26%	「椰子の実」は歌にもなっているたいへん有名な文語定型詩。知っていた人も多いと思うが、意味を考えたことはあるだろうか。現代語訳と読み比べて内容を知るきっかけとしてほしかった。	文語とは現代では使わない言葉のことで、古語ともいう。この詩では「そも」「当つ」「ん(む)」など。そして、五音と七音が規則的にくり返される定型詩になっている。問1は基本問題にも関わらず得点率が低い。用語の意味を考えず、やみくもに覚えている可能性がある。	
	問2	85%	94%			
	問3	37%	48%			
	問4	45%	52%			
	問5	61%	75%			
4	①	37%	52%	本校入試頻出の部首に関する問題。ただ部首を覚えるのではなく、その意味を理解することが今後の漢字学習に役立つというメッセージと受け取ってほしい。部首はその漢字の意味を表すことがほとんどなので、意識すると便利はず。	部首を指摘するところまではよくできていたが、部首名まで正しく答えられた答えは①②では少なかった。②は「かくしがまえ」「はこがまえ」ともに正解(本来は区別される)。なお、部首のみ指摘できた答えには部分点を与えている。	
	②	28%	37%			
	③	55%	75%			
	④	70%	90%			
	⑤	53%	75%			

● 2019年度 中学入試 第4回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	81%	91%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3は単位換算。問4～8は特殊算を幅広い分野から出題した。問10は空間図形の問題。辺や面の関係を展開図になおせるかがポイントである。	基本的な問題なので全体的にはできているが、問8は文章がやや長く、正解を求めるまでにやや複雑な計算をこなす必要があり、苦戦する受験生が多かった。ダイヤグラムを用いて整理することがポイントであった。問9は合格者と全体の得点率に差がついた。空間図形の理解は重要であるといえる。
	問2	92%	99%		
	問3	68%	80%		
	問4	85%	96%		
	問5	87%	95%		
	問6	44%	71%		
	問7	65%	86%		
	問8	13%	36%		
	問9	50%	75%		
	問10	36%	65%		
2	問1	31%	59%	平面図形の線分比と面積比の問題。問ごとに図を明確にし、必要な線分比を求め利用する問題。問3は答えを求めるために必要な線分が多く、かなりの計算力が必要となる。	問2からは正答するための計算量が多かったため得点率はかなり低くなった。問1は平面図形の比の問題としては比較的頻出の問題であるため、移動する点の位置を正確に把握し図示することで得点できる問題であった。平面図形に対して苦手意識を持つ受験生が多かったようである。
	問2	2%	9%		
	問3	1%	3%		
3	問1	44%	60%	チーム編成をモチーフにした整数の問題。文章から問題を正確に読み解けるかを狙いとした。問2は与えられた条件を満たす計算式を導けるかを問う問題であった。	文章をしっかりと読み解くことができれば比較的容易な計算で正答にたどり着ける問題であったが、想定よりも低い得点率となった。問1は5人1チームであることから5の倍数であることが読み取れる受験生が少なかったこと、問2は人数の変化と割合の変化を読み取れていないことによる不正解と考えられる。
	問2	27%	41%		
4	問1	29%	58%	本校の学校名である「TCU」をモチーフにした図形の回転体の問題。回転することで立体の空白が埋められていくことに気付き、図を捉えることができるかがポイントである。軸をずらしても考え方は変わらないので、問1を利用することができるかについても狙いとしている。	大問1の問10と同様、空間図形や立体の問題について苦手意識を持つ受験生が多い印象であった。正方形を組み合わせた立体であることをもとに、正方形1つあたりの体積を求めることで計算を簡略化することもできるが、それに気付く受験生は少なかったようである。
	問2	15%	37%		
5	問1	88%	97%	点の移動から、距離と時間の関係の規則性を考える問題。点と点がぶつかるまでの時間と距離を正確に計算することで、規則に気付けるかが狙いの問題。	問2は、それぞれの点がぶつかるまでの時間と2点の間の距離を正確に計算できる計算力が必要な問題であるが、もう少し得点率があがってもよい問題であった。規則性に気付くまでの計算で間違えている受験生が多かった。
	問2	20%	43%		
	問3	2%	5%		

● 2019年度 中学入試 第4回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1)	68%	86%	ここ数年出し続けている47都道府県から5つほどを抽出し出題した。小問のパターンも県庁所在地を書かせる、関連する統計資料の読み取り、雨温図を出題した。都道府県と県庁所在地は正しくかけることはもちろんのこと、位置関係までしっかりと把握できているかも求めている。	例年のパターンと大きく変わりがなく、全体的に基本的な設問を並べたため、概して高い得点率となった。基本問題を着実に得点しておきたい。
	(2)	93%	95%		
	(3)	83%	94%		
	問2 (1)	46%	55%		
	(2)	79%	88%		
	(3)	74%	92%		
	問3 (1)	56%	75%		
	(2)	47%	66%		
	問4 (1)	40%	52%		
	(2)	70%	84%		
	問5 (1)	97%	99%		
(2)	83%	93%			
2	問1	39%	57%	古代から近代における女性史をベースに出題した。その中で、各時代の文化や出来事、中心となった人物などに対する知識と正確な記述力を確認した。	教科書レベルを中心とする基本的な知識と正確な記述力を問う問題であったので、全体(歴史分野、全受験生)においても約68%と比較的高い得点率となった。そのため、基本事項での失点は、大きな得点差となったと思われる。基本事項の徹底と反復学習の必要性を受験生には確認してもらいたい。
	問2	75%	93%		
	問3 い	90%	96%		
	う	67%	82%		
	問4	52%	70%		
	問5	72%	82%		
	問6	53%	67%		
	問7	62%	76%		
	問8	79%	87%		
	問9 く	94%	99%		
	け	31%	41%		
	問10	76%	83%		
	問11	69%	91%		
問12	89%	96%			
3	問1	74%	85%	2018年の1年間に国内外で起こった代表的な出来事や現代の日本が抱える問題点などについて考えさせることを目的として出題した。また、国内外の基本的な出来事に対して日常的に興味関心を持っているかを問う問題を意識的に作成した。	基本的な知識と正確な記述力を問う問題であったので、全受験生においては約60%、合格者においては73%と比較的高い得点率となった。そのため、基本事項での失点は、大きな得点差となった。基本事項の反復学習と日常的にニュースなどに関心を持つことが不可欠である。
	問2	29%	51%		
	問3	93%	99%		
	問4	39%	61%		
	問5	77%	87%		
	問6	32%	51%		
	問7	57%	72%		
	問8	61%	78%		
	問9	46%	61%		
	問10	69%	75%		
	問11	88%	96%		
	問12	54%	66%		

● 2019年度 中学入試 第4回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	36%	48%	やや特殊な植物であるサボテンに着目し、その姿と生き方にどのような秘密があるのかを紹介する新聞記事を追いながら、生物をいかに合理的に理解するかを追求した。	基本知識を問う問題ではほとんど点差はつかず、きわめて得点状況はよかった。十分な受験準備態勢をうかがわせる結果である。問1・問3のように理由を考える問題ではやや点差が開き気味になった。ここがカギといえよう。説明文を読むにあたって単に受け身で読むのではなく、自分で「なぜ？」と考えて仮説を立てる姿勢を日頃から追求してほしい。
	問2	87%	92%		
	イ	94%	99%		
	問3	79%	86%		
	問4	95%	96%		
	問5	87%	94%		
	葉	70%	83%		
2	問1	54%	76%	天体について問う問題である。太陽系の惑星の特徴と観察した時の見え方を判断できるかどうかを見た。また、北の空に見える北極星とカシオペア座に関する問題である。	問1の金星の見える時間と方向、問2の金星の見える形については、図から読み取る力が必要である。問3の火星が見える時間と方角の問題は、太陽・地球・火星の位置から考えることで正解にたどり着く。問5の太陽系の惑星の特徴、問6の北極星とカシオペア座に関する問題は比較的よくできている。
	問2	43%	56%		
	問3	38%	49%		
	問4	53%	68%		
	問5	69%	89%		
	問6	63%	85%		
3	問1	84%	93%	水素と酸素の発生に対する理解と、それらの反応に関わるエネルギーを用いた発電に関する問題。問1、2に関しては基本的な知識を問う問題である。一方で、問3以降は説明文を理解し、そしてグラフの情報を読み取ることができるか。また、それを用いて計算を行うことができるかを確認する問題となっている。	基本的な知識が身についている受験生が多い。差がついたのは問3以降である。長い文章から必要な情報を読み取り、またグラフとの関連を考え計算する思考力と、計算力が求められる問題であったためと思われる。
	イ	98%	98%		
	問2	90%	94%		
	問3	32%	61%		
	問4	43%	69%		
	問5	19%	43%		
4	問1	87%	97%	浮力に関する出題である。液体中に沈んでいる部分がどのような大きさの浮力を受けているか条件から判断することができるか。密度が変化した場合にどのような変化があるかを問う内容となっている。	あふれた液体の分が液体中にある物体の体積に相当していることに気づかなかった受験生が多いようだった。密度の異なる液体に物体を沈めた場合にどのようなことが起こるかを問うものでは、油が水に浮くことから推測することが難しいようだった。表からばねののびとおもりの重さの関係を読み取るころは差がつきやすいところだった。
	問2	36%	55%		
	問3	64%	79%		
	問4	55%	67%		
	問5	65%	79%		
	問6	24%	27%		
	問7	45%	67%		

● 2019年度 中学入試 帰国生 AB方式 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	82%	88%	「複眼思考」を身につけることの大切さと、そのための読書の仕方について論じた文章。まずは、それぞれの具体例を通じて、筆者が何を主張したいのかを正しく読み取ること。そのうえで、書き出しから結論までの論の流れを大づかみにできているかを各設問で問うている。	全体的によくできていたものの、細かな部分に注目しすぎると誤答につながってしまう例がやや目立った。問3は指示語の問題だが、直前の内容のみを何となく読んだだけでは正答できない。直後をふくめて論の流れを読み取ることが必要だった。問8も解答は近くにあるものの、筆者の主張を正確にとらえられていないと難しい。
	b	93%	97%		
	c	69%	75%		
	d	65%	78%		
	e	64%	77%		
	問2	71%	78%		
	問3	33%	33%		
	問4	46%	51%		
	問5	88%	88%		
	問6	35%	38%		
	問7	55%	61%		
2	問1 1	81%	86%	物語を読むときにはまず、登場人物をおさえ、彼／彼女らの関係と置かれた状況をつかむようにしてほしい(リード文や注、設問などでのヒントを見落とさないこと)。そのうえで、場面ごとの心情や心情変化を、それらをうながすきっかけとともに正確に読み取る。今回の問題では、人物関係、心情、きっかけの読み取りを中心に設問を構成した。	登場人物の心情を読み取る際には、自分勝手な読みにおちいらないよう、本文から根拠をみつける習慣をつけてほしい。問6は、どの表現がどのような心情を表しているか確認しないまま誤答を選んだものが多かった。問7は康男の、問9は潤の心情変化を問うたが、きっかけとセットになっている分、後者の方が得点率が下がった。
	2	70%	78%		
	問2	44%	53%		
	問3	60%	71%		
	問4	71%	83%		
	問5	57%	67%		
	問6	50%	52%		
	問7	70%	76%		
	問8	34%	41%		
	問9 1	33%	43%		
2	35%	50%			
3	問1	54%	64%	本校の入試の特徴のひとつでもある詩の出題。おすすめの学習方法は、表現技法の種類を学び、詩の中から実際に見つけること。慣れてきたら、その技法によって作者が何を表現したいのかを考える。読者に注目してもらうための技法なので、その部分にポイントがあると考えてほしい。	問1は基本問題。問2は、その色を持っているものを答えさせる点でひとひねりあったが、落ち着いてさがしてほしかった。問3以降は詩全体を理解しているかが問われている。他のジャンル同様細かい部分にこだわりすぎず、作品全体から作者の思いにせまるようにしたい。
	問2	37%	45%		
	問3	53%	62%		
	問4	83%	88%		
	問5	68%	75%		
4	問1 1	87%	96%	慣用句と漢字・語句の知識に関する問題。いずれも参考書や問題集等で学習できるもので、基本的な国語の学習習慣がついているかどうかを問うた。例年と同様の問題傾向なので、しっかりとした対策をして入試に臨んでほしい。	4の空欄には、「口」「腹」の二通りの語が入れられるが、これらの違いが理解できているかどうかで差がついた。頻出の漢字の部首などをふくめ、単なる暗記ではなく、意味とともに覚えるようにしたい。
	2	74%	79%		
	3	82%	89%		
	4	23%	25%		
	問2	38%	53%		
	問3	78%	87%		
	問4	67%	78%		

● 2019年度 中学入試 帰国生 AB方式 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	85%	93%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の理論、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3は単位換算。問4～8は特殊算を幅広い分野から、問9・10は図形の問題を出題した。	数量の問題は昨年と比べ、合格者と不合格者で出来がはっきりと分かれた。基本的な問題や塾等で扱う特殊算などの受験算数に慣れているかが影響した問題だったようである。図形の問題は昨年度より出来はますますよかった。特に平面図形はしっかりと計算できていた。
	問2	66%	79%		
	問3	81%	94%		
	問4	70%	86%		
	問5	35%	52%		
	問6	47%	61%		
	問7	27%	41%		
	問8	55%	71%		
	問9	83%	93%		
	問10	56%	76%		
2	問1	53%	79%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題。問1は受験算数では、俗に「耳を出す」と呼ばれている辺ABと直線DEを延長して図形の外で交わせ、相似な三角形から線分比を求める問題である。問2は線分比から面積比を導き、面積を求める問題である。	昨年同様、典型的な比の問題であり、過去問等で練習をしている受験生にとって比較的取りやすかった問題だったように思えたが、意外にも出来は良くなかった。本校の対策をとっている受験生であれば取りやすい問題だったはずである。面積比の得点率が低いのは、ここ最近の傾向のように見受けられる。
	問2	28%	43%		
3	問1	39%	57%	旅人算に流水算の内容が絡んでいる文章題。ダイアグラムや特殊算を利用して計算できるかどうか。問1は典型的な距離の比の問題。そこから問2を解く誘導問題となっている。	文章から必要な情報をいかに早く正確に取り出せるかが分かれ目となった。特にダイアグラムを用いれば、問1・2ともスムーズに解けるが、計算のみで考えた受験生にとっては時間がかかる問題だったようである。
	問2	35%	51%		
4	問1	67%	88%	特殊な立体図形の容器に水を入れて水の割合や時間、水の深さを求める問題である。グラフの読み取りも兼ねているため、情報をすばやく読み取り、計算できるかがポイントである。	ここ最近の新テストに近い傾向のため、受験生にとっては練習してきているのか、得点率はかなり高かった。特殊算を使わずに計算で持っていくことが容易であり、算数の苦手な受験生でも手をつけやすく、立体図形の問題としては難易度は低かったようである。
	問2	51%	75%		
	問3	61%	84%		
5	問1	22%	33%	いくつかの状況からカードの数字やその合計、枚数を予測する場合の数の問題。条件を整理し、矛盾するものを消していくなど、問題の文章から推測できるかどうかを問う。	前提として問題文のルールが理解できているか。そして条件から絞り込んでかきあげることができるかがポイントであった。情報の読み取りに時間がかかった受験生が大半で、そのため、問1で苦戦していた。最後まで解いた受験生はわずかであった。
	問2	20%	29%		
	問3	4%	8%		

● 2019年度 中学入試 帰国生 AB方式 英語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	Q1	30%	45%	英語圏の小学校で習う基本的な語彙にとどまらず、一般的な知識をどれだけ習得しているかを問う問題である。単語の綴りにも日頃意識して学習できているかが問われる。	英語圏で暮らしていたということもあり、ある程度英語の語感が身についているというように感じられる。しかし、Question 3以外は全て基礎的な問題であるために、60パーセント以上の得点率が欲しかった。
	Q2	69%	79%		
	Q3	0%	0%		
	Q4	79%	92%		
	Q5	47%	60%		
	Q6	26%	36%		
2	(1)	28%	40%	比較的量の多い対話文を読み、話の流れを短くまとめる力を見る問題である。発言に対しての微妙なニュアンスをつかみ取り、別の言葉で置き換えられるかが問題で、速読の中にも正確性が求められる。サマリーの部分には選択肢が多いが、対話の流れが正確につかめていればすぐに適切な語が見つかるはずだ。	対話の内容は決して難しいものではなかったはずだが、受験者の答案からみると、正答率にばらつきがあるのが気になる。本文全体の流れは大体つかめているのかもしれないが、細かいところまで正確に読めていないパターンと、パラフレーズしたときの語法が分からないパターンで失点しているケースが多かった。迷ったときは必ず本文に立ち戻りしっかりと確認しながら選択肢を選んでほしい。
	(2)	79%	89%		
	(3)	11%	13%		
	(4)	83%	92%		
	(5)	43%	49%		
	(6)	78%	92%		
	(7)	38%	60%		
	(8)	46%	64%		
	(9)	10%	15%		
	(10)	70%	79%		
	(11)	40%	58%		
	(12)	50%	58%		
3	Q1	31%	46%	英作文能力を語句整序で確認する問題。慣用表現や語法、文法の能力が必要である。会話の能力に秀でていても、日頃正しい英語を意識して書けるように努力していなければハードルが高い問題となっている。	問題を解いて、見直しをせずそのまま先に進んでしまった受験生が多かったように見受けられる。文章を作ったら必ず「意味が通じるか」、「文法的に正しい文章になっているか」の確認を怠らないでほしい。そうすれば、少なくともQ2、Q4、Q5で失点することはまずない。
	Q2	48%	67%		
	Q3	41%	52%		
	Q4	64%	77%		
	Q5	18%	30%		
4	Q1	77%	89%	400語程度の平易な英語で書かれた論説文を、いかに速く読みとき、質問に答えられるかを選択形式で問うた。日頃は小説を読むことが多いと思われるが、このような論説文にも臆することなく取り組めるかを確認した。比喩的な表現にも対応できるかが問題となる。	語数と難易度は例年に比べ、低くなっているため、この問い全体を通じてはよくできていたと考える。第1～第2段落にかけての筆者のsarcasmもしっかりと読み取れている受験生がほとんどであるが、Q5の得点率が低いのが気になった。おそらく“lacks”という言葉がついているのに気づかずに解答してしまったのではないか。これは見直しで防げたはずだ。
	Q2	69%	81%		
	Q3	63%	77%		
	Q4	72%	72%		
	Q5	29%	34%		
5	Q1	47%	62%	記述を含む長文の問題である。和訳の問題を通じ、あえて日本語の運用能力も問うた。また、知らない言葉があっても前後関係で本文が読み進められるかを問う問題である。	本文内の使用語句は難しいものが多かった。しかしながら、前後関係で読み取る力があれば、正解を導き出せたはずである。また、本文の語数に関しては例年より大幅に減ったため、じっくりと読み込み、丁寧に記述をこなしてほしい。Q1・Q2は上級単語が含まれるが、前後関係で判断ができるはずだ。
	Q2	23%	37%		
	Q3	35%	44%		
	Q4	71%	86%		

● 2019年度 中学入試 帰国生B方式 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	85%	93%	今年度より構成を変更し、大問1は地理と歴史(江戸時代まで)の複合問題とした。小問単位では例年と変化がないため、基本的な問題が中心である。基本的な知識の習得を確認する問題を多くしている。	基本的な設問が多いため、高い得点率が並んでいる。問5(4)は意外と誤字が目立った。問6(1)は機械工業の見極めが正解・不正解を分けた。記述式の設問も例年より減っているため、高い得点率といえる。
	問2	83%	91%		
	問3	89%	95%		
	問4	76%	86%		
	問5 (1)	88%	93%		
	問5 (2)	76%	83%		
	問5 (3)	83%	84%		
	問5 (4)	30%	40%		
	問6 (1)	46%	58%		
	問6 (2)	68%	80%		
	問6 (3)	20%	21%		
	問7	90%	97%		
2	問1 (1)	56%	63%	構成を変更し、大問2は歴史(明治時代以降)と公民分野からの出題とした。公民分野は基本的な範囲を中心に、歴史の分野は並び替えを中心としたやや応用力を求める設問を中心とした。	並び替え問題は、提示されている選択肢だけでなく、その他の関連する前後の出来事や人物を思い浮かべながら解いていきたい。公民分野は、まずはしっかりと憲法、国会などの基本的な事項を知識として習得しておきたい。
	問1 (2)	89%	96%		
	問2 (1)	76%	83%		
	問2 (2)	67%	84%		
	問3	56%	66%		
	問4 (1)	49%	53%		
	問4 (2)	58%	67%		
	問5	93%	95%		
	問6	67%	80%		
	問7	50%	55%		
	問8	61%	66%		
問9	85%	95%			

● 2019年度 中学入試 帰国生B方式 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	66%	72%	昆虫を題材に、体のつくり、くらし方の知識を問うとともに、割合の考え方を利用して生息個体数を推定する考察力を試した。	大きな分類群を対象として共通の特徴はよく理解していても、個別のいきもの特性を問われると苦手だという受験生は多いだろう。たかが数問ではあるが、今回もこうしたところで差がついた。データをもとにした定量的な推論を行う力はまずまずといってよいと思う。問4では答えるべき範囲を設問から読み取りきれなかったと思われる解答がかなりあった。
	問2	60%	75%		
	問3	69%	72%		
	問4	42%	49%		
	問5	61%	64%		
	問6	49%	53%		
	問7	65%	76%		
2	問1	91%	96%	堆積岩の基礎的な知識と、地層のでき方に関して一般的におさえておかなければならない内容を理解しているかを問う問題である。地層のようすから、堆積した当時の環境を把握して、正確に答えられることが求められる。	問1は、よくできていた。問2・問3は地層の観察結果から堆積した当時の環境を推察する問題である。問4は実験器具の基本的な使い方、問5は岩石の基本的な特徴であり、しっかりとおさえておきたい。問6は地層の傾斜を推定する問題であり、見かけの方向と観察結果とを合わせて考えることが必要である。
	問2	52%	64%		
	問3	59%	70%		
	問4	51%	53%		
	問5	45%	50%		
	問6	25%	30%		
3	問1	69%	79%	金属と酸による気体の発生と、その反応の過不足について問うた問題である。グラフや表の情報から反応の終点をみる力や、計算をする力が求められる。	全体的に正答率が高く、基本的な知識や、グラフ表から情報を読み取り、計算する力が身につけていることがわかる。問6はやや得点率が下がっている。答えにいきつくまでの手順がいくつか段階を踏んでいるためと考えられる。
	問2	69%	80%		
	問3	74%	84%		
	問4	74%	86%		
	問5	80%	93%		
	問6	50%	61%		
4	問1	76%	88%	前半は、豆電球と電池のつなぎ方による明るさの違いや、接続の仕方によって電流の値がどう変わるかを考える典型的な問題である。後半はダイオードの知識問題に加え、電流が流れるかどうかを調べる難易度の高い問題となっている。	ほぼ予想通りの得点率であったが、意外にも問4の得点率が低かった。問5は6個の選択肢から選ぶ問いなので70%を超えたと思われる。まずは典型的な電気の問題をしっかりと定着することが望ましい。
	問2	66%	80%		
	問3	54%	62%		
	問4	37%	46%		
	問5	72%	75%		
	問6	37%	41%		

● 2019年度 中学入試 グローバル方式 英語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	73%	87%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、不規則変化動詞の知識も必要とされる。	全体的に得点率は高かった。基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化には注意が必要である。
	問2	78%	100%		
	問3	59%	80%		
	問4	38%	67%		
	問5	49%	40%		
	問6	30%	47%		
	問7	84%	100%		
	問8	81%	73%		
	問9	76%	87%		
	問10	68%	93%		
2	問1	97%	93%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも5語を並べ替えた上で、2番目と4番目の組み合わせを解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準2級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。群動詞、熟語などの知識も定着しているようであり、特に合格者の得点率は全問において90%を越えている。合格者に対しては、今後の活躍が大いに期待される。
	問2	76%	93%		
	問3	97%	100%		
	問4	92%	100%		
	問5	92%	100%		
	問6	97%	100%		
	問7	95%	100%		
	問8	62%	93%		
	問9	92%	100%		
	問10	92%	93%		
3		80%	93%	Eメール形式の総合的な読解力を問う問題である。出題の意図としては①現状把握、②経歴等過去における状況把握、③未来における展望把握、以上の3点を軸としている。内容に一致するものを選ばせる問題であるが、内容に対する正確な理解がなければ回答が困難な形式となっている。しかしその一方で、登場人物とそれに関わる人物と、それぞれの行動に対する識別が正確にできれば確実に正答できる問題となっている。	予想していた通り、得点率はかなり高かった。左記にもあるが、各人物の特徴を捉えることができれば、解答がさほど困難ではないことがわかる。選択肢に関しても特段難易度を向上させたわけではないので、このような結果につながったと認識できる。設問の順序も本文の出来事順に並べているので、文中でのヒントを容易につかめたのではないかと考える。速読感覚で、大問4・5に続くための設問として、今後も同様、同傾向の問題を出題する必要性を感じる。
4	問1	32%	53%	やや長めの長文の中で、文法・語句・作文などを問う総合的な問題とした。限られた時間の中で正答に至るために、文脈をきちんと汲み取ることに、その上で文法の力がどれだけ身につけているかを測るような問題とした。	本問に関しては、予想を下回る得点であった。問6のように文脈が取れた上での文法(主語はする側ではなく、される側だから受動態になる)や、問1のカッコより後ろが完全で先行詞が場所だから関係副詞が入るなど、きちんと内容を把握した上で確固たる文法力が欲しい。
	問2	68%	87%		
	問3	92%	93%		
	問4	89%	100%		
	問5	68%	73%		
	問6 ①	5%	13%		
	②	0%	0%		
5	問1	83%	89%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認するための出題。長文における内容理解。和訳を出題し、日本語に適切に訳せるかを問う問題。段落ごとにきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるか、また和訳では修飾関係を理解して訳せるか、などを問うた。	準2級レベルの問題であるが、どの問題も高得点であり、十分な実力があると判断できる。和訳の採点は内容理解を主眼として行ったが、受験生の解答から、英文の主張、修飾関係、話の流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問2 (1)	78%	93%		
	(2)	89%	100%		
	(3)	86%	100%		
	(4)	84%	87%		